

[III]

第三部

17. 世論調査の一問題

堤 光 臣

世論調査に於て、いゝまわし、質問の順序、場所、質問の長さによつて反応が全く、かわつてしまうならば、世論の把握は極めて困難になつてくる。

当研究所では、昭和26年の都知事選挙に關し、前後5回にわたつて世論調査をおこなつた。その質問表は各回、以上の点について検討できるように考慮して作つてある。

これらの質問のうち、選挙の時期を遍りて変動すると考えられるものについては、同一回次の調査に於て、以上の諸点について、比率の差の検定をおこなつた所、有意差が認められなかつた。

又、選挙時期を遍りて変動しないと考えられるものについて、各回の間の比較をした所、やはり、殆んど有意差が認められなかつた。

すなわち、この調査に於て、比率の差の検定によつて分析をすゝめるとき、質問の場所、質問表の長さ、バイヤズは考慮しなくてよいであろう。このことは次の事を暗示する。

1. この5回の調査は、質問表の長さも、質問の場所（従つて順番）もちがつてゐるが、以上の検討により、ほかの質問についても比較可能であると思える。
2. ある社会現象について、詳細にわたる——したがつて多数の質問について調査をおこない、そのうちのある質問が決定的な要因となるらしいと見当がついたときは、これらの問

問だけで構成された質問表を用いて調査することは意味があると懸念する。

以上で問題にしたことについては、それぞれ種々の段階のものが存在し、又、質的にも考慮しなければならない。

しかし、われわれは、その問題を、普通よく用いられているような質問についてだけ検討した。

なお、ここでは比率の差の検定は行っていない。この点に関しても又、問題は残る。

18. 郵便調査について

多 賀 保 志

[i] 調査目的

- a) 都知事選挙調査(昨年四月実施)のノンレスポンス分析
- b) 調査法の改良(郵便の種類の適当な配合により返信率を
引上げ且つコストの軽減をはかる)

[ii] 調査対象

ノンレスポンスが全部で409名あつたが、郵便発送の際の手違ひで実際に調査したのは403名であつた。

[iii] 調査の概要

昨年12月より今年の2月迄の間に三種類の郵便を使つて3回追及した。その種類及び返信率は次表の通り

(数字は実数)